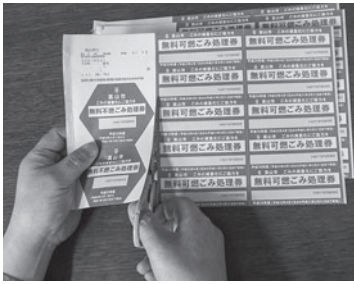


平成30年度の無料ごみ処理券の回収にご協力を

平成30年度の無料可燃ごみ処理券(緑色)は、資源回収を行っている小中学校PTAや保育園・幼稚園の保護者会、ボランティア団体などが4月から5月にかけて回収を行っています。

回収されたごみ処理券は、団体から市に提出され、回収枚数に応じた報奨金が各団体に交付されることで、各団体の活動に役立っています。

※六角形の不燃ごみ処理券(緑色)は回収の対象外なので、可燃ごみとして処分してください。



【問合せ】生活環境課
☎35-3138
広報ID 1009321

小さいごみ推奨袋が発売されます

現在の45ℓサイズに加えて、ご要望がありました小さいサイズ(30ℓ、20ℓ)のごみ推奨袋(可燃・資源用)が今春発売されることになりました。



- 家族が少人数なので現在のごみ袋では大き過ぎる
- 一杯詰めると重くて運べない
- 臭いが気になる生ごみは小まめに出したい
- 小さいサイズにしてごみの減量化に取り組みたい

このような方はぜひ購入を検討してみませんか。可燃ごみの他に缶、びん・ペットボトル、プラスチック・紙製容器包装にも使用できます。なお、ご購入はごみ袋販売店でお求めください。また、ごみを出す際は(可燃ごみはごみ処理券を貼り)収集日当日の午前8時30分までに指定されたごみステーションに出しましょう。

【問合せ】資源リサイクルセンター ☎35-1244

メイド・バイ飛驒高山認証製品の申請受付を開始します

飛驒高山でつくられた農産物や加工品、家具・工芸品など「飛驒高山ブランド(飛驒高山の風土と飛驒人の暮らしが生み出す本物)」を構成するにふさわしい産品を市が認証するメイド・バイ飛驒高山認証制度の申請受付を開始します。

ついては、申請にあたっての説明会を開催します。

【日時】4月16日(火) 19:00~20:30

【場所】市役所3階行政委員会室(花岡町2)

【申込】4月15日(月)までにTEL

【問合せ】ブランド戦略課 ☎35-3001

認証された産品には認証ロゴマークを貼ることができ、市がホームページやパンフレットなどに掲載し、積極的にPRしていくとともに、認証産品の市民への周知や取り扱い店舗の拡大を推進します。



三俣蓮華岳は、飛驒山脈最深部にあり、標高は2,841mです。双六岳から三俣蓮華岳まで、信州側の猟師があざけった」という話です。

三俣蓮華岳という信州側の呼称が、飛驒、越中、信州の三国境の山として定着した理由は、明治末期、日本山岳会のパイオニア達が、信州の猟師、上条嘉門次の話を信じた結果でした。それは、「飛驒の猟師達が付近で仕留めたクマの肝臓(蓮華胆)をクマの胆のうと間違って食べたのを、信州側の猟師があざけった」という話です。

江戸時代、加賀藩の黒部奥山廻りの記録では、現在の三俣蓮華岳を鷲羽岳(鷲ノ羽ヶ岳)とよんでいました。現在の鷲羽岳は、隣の別の山です。

飛驒山脈ジオパーク構想
ジオサイト(第16章)
氷帽のあった三俣蓮華岳

江戸時代、加賀藩の黒部奥山廻りの記録では、現在の三俣蓮華岳を鷲羽岳(鷲ノ羽ヶ岳)とよんでいました。現在の鷲羽岳は、隣の別の山です。

【問合せ】飛驒山脈ジオパーク推進協議会
☎0578-84-0038

後半は、7万年前以降、徐々に大陸氷河が増えた結果、海水が減ってきました。海面が130メートル下がりが日本海は閉じ、対馬暖流は入らなくなりました。そのため、降水量(積雪量)が減り、低温にも関わらず氷河が小規模になりました。(飛驒地学研究会 中田 裕一)

の東側の登山道は、並んだカール(氷河が削ったお椀状の地形)の底を歩き、夏は日本有数の高山植物のお花畑です。最終氷期は、およそ7万年前から1万年前までの期間で、前半と後半がありました。飛驒山脈の山頂や稜線東側のカールは、後半の氷河による地形です。実は、前半の氷河の方が拡大しており、その痕跡は、カールの下流のU字谷(氷河が削った断面がU字状の谷地形)です。氷期前半の飛驒山脈最深部・三俣蓮華岳付近は、氷の上に所々山頂が出ている氷帽とよぶ氷河の光景でした。

後半に比べ前半で氷河が拡大した理由は、現在と同じく日本海に対馬暖流が入り、冬の季節風による降水量が多かったためです。暖流は雪雲を作る水蒸気をたくさん蒸発させます。

後半は、7万年前以降、徐々に大陸氷河が増えた結果、海水が減ってきました。海面が130メートル下がりが日本海は閉じ、対馬暖流は入らなくなりました。そのため、降水量(積雪量)が減り、低温にも関わらず氷河が小規模になりました。(飛驒地学研究会 中田 裕一)